

# 町小だより

令和3年  
4月23日  
No. 657  
御免町小学校



## 強く 優しく

### ～子どもたちへ 4年目のメッセージ～

校長 藤井 聡

穏やかな春の日差しに包まれて、この原稿を記しています。一年前には、子どもたちのいない学校の校長室で、同じようにパソコンに向かっていたことをしみじみと思い出しています。

昨年度は、休校中の子どもたちに、FMしばたを通じてメッセージを届けたり、ホームページに『やってみよう』と題した休校中の学習のヒントをアップしたりと、初めて体験する事態に、一方通行の発信をすることしか許されませんでした。

しかし、今年は違います。時折聞こえる子どもたちの笑い声が、学校に命を吹き込んでいます。学校全体が動いています。以前は当たり前であったこの学校の姿に、感謝し、幸せを感じながら今年度最初の『町小だより』をお届けします。

この学校の校長として赴任して4年目。今年度末に定年を迎える私が、最後に子どもたちに伝えたいことは、『強く 優しく』生きることの価値です。

『誰かを幸せにするために』この世に生を受けた子どもたちには、『優しさ』を発揮して、周囲の人々を笑顔にし、自分自身も輝いてほしいと願っています。なぜなら、人に対して優しいことは、その人の価値を上げるからです。人は自然と優しい人の周囲に集います。優しい人から得た優しい想いに共鳴し、自分自身もまた、誰かに優しさを提供しようとしめます。つまり、そこには、『優しさの連鎖』が生まれるのです。『優しさの連鎖』の中で生活することは、幸せです。毎日が楽しいはずですが、それが学校の中で起きたらと考えるとワクワクしてきます。そして、そんなことが、この町小ではできると思っています。

『優しさの連鎖』が広がりを見せていく学校を創ることの一番の鍵は、「子どもたちが自ら考えて行動すること」を保障してやることです。そして、『強さ』を身に付けさせることです。『優しさ』は、内発的なものであり、形ではありません。教師主導の押しつけの教育の中では、真の『強さ』も『優しさ』も育たないのです。友達を思いそっと手を差し伸べることも立場の弱い者をかばうことも『優しさ』ですが、その根底には、『強さ』が必要になります。また、自分自身の弱さや課題と向き合い、その克服に果敢に挑むことも『強さ』の表れです。

私が考える『強く 優しく』生きるとは、私自身の目標であり、人としての生き方を示す、大切な子どもたちへのメッセージです。

子どもたちに思いを馳せ、『優しさ』を受け取り、笑顔で生活する子どもたちの姿を思い浮かべながら、職員一同、努力してまいります。御支援お願いいたします。